

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名

【 京都府 京都市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都市立 桂 中学校 第一学年 6クラス（227名） 育成学級生徒は交流クラスで体験
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 総合【人権学習】 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットボール選手との交流を通して障がいのある人々と共生する社会について考える。 ・車いす体験や選手の体験談を聞くことを通して、共生社会を実現するために自分たちができることを考える。 ・自分のクラスや学年を振り返り、互いに認め合う集団を築こうとする。
5 取組内容	<p>（事前学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期人権学習（6月）に「多様性と共生社会—インクルーシブな社会を考える」を主題に、多様な個性をもつ人々との共生のあり方や共生社会を実現する上での問題を考え、共生社会実現のためのクラスの3箇条を決めた。その中で、パラリンピックの映像やパナソニック吉備の映像を視聴しながら、相手の個性を理解し、尊重し、また社会の現状を理解し、行動に移すことが大切であることを学習した。 <p>（事業当日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手による車いすデモ ・生徒全員の車いす体験 コーンまでの一往復帰りは後ろ向きで ・男女代表各5名による車いすバスケットボール（試合）体験 2組対5組、3組対6組、4組対7組（各3分） 他の生徒は、周りで応援 ・車いすバスケットボール選手体験談（約30分） ・教室にて感想記入

6 主な成果



【生徒の感想文より】

○山本さんは、1人じゃできなかったことも仲間とならでき、以前出来なかったことの悔しさを乗り越えていっしょる。自分も少しでも近づけるようにしていきたいと思いました。

○車いすを使わなくてはならない人や障がいのある人=かわいそうではないと思いました。自分のような困った人のために何ができるのかを考えている山本さんはすごいと思いました。

○話を聞いて、車いすに乗っている方の気持ちを知り、これからは哀れみの目を向けるのではなく、何か手伝えることを聞いて前向きに考えようと思いました。今度、車いすバスケットボールについて調べてみようと思いました。

○車いすの体験をして、これで生活をするのはとても大変なんだと実感しました。最近では段差など車いすで通るには不便な所が少しずつ減っているとは思いますが、それでも車いすの方々をはじめとした障がいのある人たちに優しい社会とはいいがたいと思いました。

○「できない」と決めつけず、「やってみよう、何回でも」と考え方が変わりました。よかったです。何をするにも前向きにチャレンジできるように頑張りたいです。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

- ・会場設営や並び方など
- ・前期人権学習(6月)に、ケーススタディとして相手の個性を理解し、尊重しながら行動に移すことが大切であることを学習した。その中で障がいのある人へのアプローチの方法を考え、車いすバスケット選手にも同じようなアプローチができるように確認した。また、全員が車いすの体験をすることで、車いすで動くことの難しさを実感したり、周囲の人たちにどう関わってもらいたいのかなどを考えさせられるような取り組みとした。

8主な課題等

- ・生徒全員が車いすを体験することに(思ったよりも)時間がかかり、選手の体験談のあとの意見交流の時間がとれなかった。

9来年度以降の実施予定

- ・車いすバスケットボールを体験することは、なかなかできないので、1年生の後期人権学習で来年度も実施できればと思う。
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日常生活の中でスポーツを通じて共生社会の大切さを浸透させていきたい。